



一般財団法人

ふくしま未来研究会

30年後の福島を、元気にする。

ふくしま未来研究会は、「福島を元気にする活動」をサポートします。



助成金事業

① 清水奨学金

・福島市に住所を有し、2018年3月に福島市内の中学校を卒業し、高等学校・高等専門学校進学予定の生徒で経済的理由により就学困難な世帯を対象とし、1人10万円、118名で1,180万円の給付実績。2019年については福島市、伊達市、桑折町、国見町、川俣町の5市町に拡大し、400人で4,000万円の給付枠。

② 「子ども食堂」助成金

・福島県内における「子ども食堂」活動者(個人・団体)を対象に2018年4月に運営資金総額21団体/420万円を助成。

③ プロパー助成事業(創設以来)

・プロパー助成 188件 656,631千円

再生可能エネルギー事業

① 福島水力発電促進会議

河川法等法令の改正、および既存ダムの有効活用等により、水力発電のさらなる増強を図り、水源地域の活性化を目指す。

- ・2017年6月18日第1回促進会議 ・2017年12月17日第2回促進会議実施済
- ・2018年7月19日参議院議員会館において、「水力発電推進議員連盟」夏季集会参加。
- ・2018年8月3日「水力発電が日本を救うふくしまチャレンジ編」の発刊。(東洋経済新報社より)

② 洋上風力発電

- ・新しい産業、雇用の創出と漁業との共生を目指し、福島県いわき沖において総出力約460MW(5~6MWクラス80基)の浮体式洋上風力発電事業計画を推進中。2025年運転開始予定。
- ・青森県・岩手県沖及び北海道道南沖において浮体式洋上風力発電所計画(各々約500MW)を検討中。

③ 大型風力発電

・福島市吾妻高原牧場跡地において、総出力32MW(2MW×16基)の大型風力発電所計画を推進中(環境アセス準備書段階)。2020年4月着工、2022年7月運転開始予定。

④ 小形風力発電(20kW未満)

・北海道及び東北エリアにおいて未来研グループ企業で約200基建設予定。内2018年12月現在、140基稼働中。

⑤ バイオマス発電

・福島市桜本地区にて2018年4月より1基40kWで売電開始。

⑥ 中小水力発電

・県内の水力資源を活用するため、JRE と協同で小水力発電所1MW級を2ヶ所の調査・設計を実施中。



⑦ 太陽光発電

- ・稼働中発電所:福島市水梨地区2.4MW×2か所、三重県津市2MW。
- ・建設中発電所:西白河郡西郷村約44MW。2020年1月運転開始予定。
白河市大信地区約75MW。2019年3月着工、2022年2月運転開始予定。
両発電所ともジャパン・リニューアブル・エナジー(株)との共同事業。

⑧ 福島復興風力(株)への参画

- ・福島県の肝いりで開始された阿武隈地区風力発電所計画に未来研及び信夫山福島電力(株)が参画。(資本参加及び役員派遣)
- ・総出力150MW(3.4MW×46基)で推進中(環境アセス準備書段階)。2019年9月着工、2022年4月運転開始予定。

⑨ 福島大学『再生可能エネルギー寄付講座』の開設

・今後県内で増設が必要な「太陽光発電」「小形風力発電」「地中熱発電」「バイオマス発電」等の研究を一層促進し、その得られた成果が地元に還元されることを願い、寄付講座を開設。(当財団・関連企業及び福島県建設業協会県北支部有志による拠出)寄付額2億5千万円(5年間合計) 2015年11月4日第1回講演会を開催。2018年12月まで5回実施。

地域活性化事業

① 中心市街地再開発計画

・福島県立医科大学の新学部誘致事業(建設予定地の3千㎡は当財団より福島市に2017年3月31日寄贈)2021年開設。

② 福島駅東口地区第一種市街地再開発事業計画

- ・福島駅東口市街地再開発準備組合 2018年4月2日発足。(事業協力者:野村不動産)
- ・再開発計画地区は、JR福島駅東口近至という希少性の高い場所に位置。
- ・再開発計画地区内の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、建築物や敷地整備、並びに公益的施設の一体整備を行うことができる市街地再開発事業を活用し、「県都ふくしま」の顔にふさわしい、商業、業務、文化、まちなか居住などの高次都市機能の集積・強化を目指す。

③ 花見山及び市街地周辺道路整備計画

- ・花見山の創設者である、故阿部一郎氏が生前思い描いていた交通混雑の緩和、及び高齢者等が車中より花見山を鑑賞できるようにする「フラワーライン(仮称)」の整備支援。
- ・吾妻山噴火に伴う緊急時対応、及び福島市東部地区の新産業創出による地域振興のための高規格道路整備支援。
- ・福島市域幹線道路、及び相馬地区からの県立医大アクセス、相双、会津地区等への広域観光道路としての国道115号の整備支援。

④ 信夫山プロジェクト

- ・別名「御山」と呼ばれ市民に親しまれている信夫山を、御神坂広場の整備・フットパスコースの設定を通し、福島市観光のシンボルとする。
- ・隠れた魅力を広く告知する活動を、市内に数多くある信夫山関連団体と連携して行う。
- ・2016年4月18日「信夫山ガイドセンター」を開所。
- ・2018年12月末現在の来場者数/23,685人
- ・四季折々の美しさを周知するため「信夫山フォトコンテスト」を主催。(現在まで2回実施)



経営支援事業

・福島市を中心とした中小企業を対象に経済支援活動を実施。当法人の設立趣旨でもある「30年後の福島を元気にする」ことを目指し既存企業の業績向上や、創業・起業の支援など徹底的に成果を求める活動を行うことで、福島を元気にしていく。現在、2社の支援が進行中。

設立日	平成25年9月26日	基金	代表理事の個人資金3百万円を元に発足	理事	岩下 一男(元県警刑事部長)	理事	但木 傑(株)ホクショー社長)
目的	30年後を見据え、福島を元気にする活動を行う個人・団体の支援・助成。	代表理事	佐藤 勝三	〃	望木 昌彦(尚志学園理事長、元県議)	〃	渡辺 和弘(信夫山福島電力(株)社長)
発起人	佐藤 勝三	副代表理事	岡部 政美(株)エスケーコーポレーション会長)	〃	永倉 禮司(元東邦銀行取締役、元福島大学副学長、現学長参与)	〃	梅津 茂巳(事務局長 元東邦銀行取締役、元福島医大理事)
		〃	南 一美(株)zero one社長)	〃	菅野 隆夫(元東邦銀行公務部長)	監事	安部修太郎(税理士)